

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇修養科事後研修会

◇網走ひながたセミナー始動◇

修養科事前研修会よろこびセミナーに続き、
修養科事後研修会ひながたセミナーが始まりました。
詳細は5ページをご覧ください。

◇こどもおぢばがえり募集始まる◇

1人でも多くの子どもの声を掛け、おぢばの楽しさを
感じてもらいましょう!!



大教会のHPがご覧になれます!
月報には掲載されない写真もいっぱいです!
ぜひ一度ご覧下さい♪



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会五月月次祭

大教会5月の月次祭は、12
日午前9時30分から新川正人
理事祭主のもと、執行された。
新川理事は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「本日祭典後には、布教の家
千葉寮寮長、中村陽子先生を
お迎えして、婦人会先達講習
会を開催させて頂きます。婦
人会員、年祭活動をさらに活
発に進めさせて頂く所存でご



中村陽子先生

5月12日祭典終了後、引き
続き参拝場にて「先達講習会」
が中村陽子先生（布教の家千
葉寮寮長）を迎え開催された。
中村先生はご自身の信仰生
活を通して、親神様・教祖を
感じるこのありがたさをお
話された。

婦人会 先達講習会

ございます。

私共教会長、よふばく信者
一同は、年祭活動二年目も半
ばとなり、私共年頭に定めた
人、お供えの心定め完遂目指
して、六月は特にぢばへの運
びを仕切つてつとめさせて頂
きたいと存じます。」と奏上
した。
その後座りづとめ・十二下
りのてをどりが勤められ、参
拝者は共に勇んでみかぐらう
たを唱和した。

◆教祖は見ていて下さる◆

私は教祖九十年祭の時に、
母から「あんたちよっと良い
人いるから会ってみない」と
言われて、お見合いしたんで
す。十九歳でした。びっくり
しました。でも、その後の母
の言葉に私はもっと驚いたん
です。

お前ね、今から結婚したつ
て、五年十年は何もできない
のよ。でもね、今から結婚し
ておけば、教祖の百十年祭、
百二十年祭には四十代五十代
になってちょうど良い歳に

なって、すっかり働くことが
できるでしょう。こう言った
んです。

母の言うように良い人と縁
があったんだなと思います。
千葉県の富里というところに
ある、大美國分教会へ嫁がせ
て頂きました。当時はまだ初
代さん夫婦がおられ、両親と
私たち後継者夫婦と三夫婦が
揃ったんです。

二十代で四人の子供を授け
て頂いて、三十代までは本當
に子育てに明け暮れていまし
た。ほとんど一日、台所の中
というような生活でした。

朝づとめから夕づとめまで
は教会づとめと、よくそのよ
うに父から言われていました
ので、本當にできる限り部屋
に入らないように、教会のこ
とをさせて頂きました。

今日は一日ゆっくりできる
なっていう日もあったよう
ななかったような面白いな状
況で、その当時の私は毎日
うクタクタで、それを喜ばな
い自分が大嫌いでした。

自分も若かったから、皆と
同じように私もどこかに出掛
けたい。そんな気持ちばっか
りでした。陽気ぐらしの天理

教?どこが?どうしたらそんな生活できるのよと腹の中でいつも思っていました。

どうやったら喜べるの、どうやったらこの生活を勇めるの。私はお道を通りたい。本当に毎日のことに追われて、ちゃんと考える時間もありませんでした。

私は結婚してすぐ父に、布教に出させてほしいって言ったことがあるんです。父は布教の家千葉寮の建寮に携わった人で、初代の寮長を長く務めた人ですが、「ダメだガソリンの入ってない車は走れねえんだよ」って言われて即答で却下だったんです。

ガソリン入ってないって：私はこんなに胸の中いっぱいなのに、空っぽなのこれってと、もう自分の姿なんて自分では見れないし分からなかったのです。

が二十五歳の時でした。

三歳になる長男、一歳の長女、お腹の中には四ヶ月くらいになる次男と一緒に、おむつやお菓子などを持って、フラフラフラ、お天気のいい日は歩いてました。

もうね、絵が浮かびますでしょう。ご想像通りですよ。にいがけなんかまともにできやしないんです。毎日歩いているだけがやつとでした。

でも教祖はね、ほっとかないんですよ。こんな情けない本当に何もできない布教師ですけれど、五月の今頃でしたが、教会を出されて、歩き始めて二週間ぐらい経った時だったんですけど、朝から二時間ぐらいい歩いて、ちょっとそろそろ帰らないと子供の電池が切れるなって思い始めたところだったんです。

案の定、三歳の長男が、足が痛いもう歩きたくないもう嫌だ、もう動かないと言つてしやがみ込んでしまったんです。抱っこもおんぶもできないし、私はバギーを引いてるし、お腹にもいるし、もうとにかく戻らなきゃダメだと思つて、手を引っ張つて歩かせている

と、とんだ大泣きになってきちゃったんです。

近道を通りながら、あと少しでアパートだと思つて歩き出して、長男はギャーギャー泣いてるし、おまけにバギーに乗っていた一歳の長女まで一緒になって大泣きになっちゃったんです。

二人の子供に、人気もないところで泣かれて、一気にくたびれちゃって、なんで私はこんなことやってるのかな、何のためにやってるんだろうなと立ち尽くしてすごく惨めになったんです。

本当にやりたいやらないって、ずっと思っていたことをやらせてもらっているのに、こんな事して何になるんだろうって思っちゃったんです。

そんな時に、周りに人なんかいないと思つていたんですけど、高い木の木陰で、畑仕事して一服していたおばあちゃんがいたんです。そのおばあちゃんが、あんたらこっち来て一緒にスイカ食べねえかって呼んでくれたんです。富里は、五月の末から富里スイカというのが出てくるんです。六月が最盛期です。そ

のおばあさんが自分の畑で採れたスイカを、棒切れで割つてくれ、私たち親子にスイカをご馳走してくれたんです。

甘くて瑞々しくて、子どもたちも本当に嬉しそうな笑顔で美味しく頂いたんです。本当に情けない。教祖は、ただただ歩いて何もできないような布教師にもこんな親心をかけてくれるんだなって思えたんです。

ああ大丈夫なんだ、神様はいつも私たちを見ていてくれる。ご存命の教祖は先回りして待っていて下さっているんだと、本当に心の底からそう思えたんです。

今思えばなんてことのない小さなことなんです。どんな人でもこのくらいの経験はしていると思います。この時の私にとっては、この日が一生の宝物になったんです。

それは私の心の中に、親神様のお働きだと感じる心、これはご存命の教祖が導いて下さっているなあと感じる心が、私の中にできたということが本当にありがたいと思いました。

中でも、親神様のお働きに満ち溢れている。教祖はいつも声を掛けて、お導き下さっている。ただ大事なことは、私にそれを受け止める心があるかということだったんです。

こんな布教生活もせつかく始まったのですが、わずか半年で幕切れとなってしまいました。

◆母の事情・身上を通して◆
母がおどば帰りの途中、東名高速道路で交通事故に遭い、母だけ車から放り出されて、脳幹を損傷し、全く回復の見込めない寝たきり状態となつたんです。

急ぎよ私たちはアパートを引き払つて教会に戻り、すぐに会長交代ということが決まりました。突然母のいなくなつた教会で、半年後には就任報告祭をやるということになって、本当に毎日が嵐のよう過ぎていきました。

事故から三ヶ月目、母は奇跡的に意識を取り戻し、自力呼吸もできるようになるといいうご守護を頂きました。ただ、手足の自由も全く効かない本当の寝たきりでしたから、全ての面で介護が必要だったん

です。

そういう生活をしている中で、ある時、私の母方のおじいちゃんとおばあちゃんが母の見舞いに来てくれ、そのおばあちゃん、私が台所でお茶を入れていたら、こそっと客間から出てきて、言うんです。陽子ちゃん、このお母さんの姿はね、あんたのことだよ。そう思つて、しっかりお世話させてもらいなさい。と言われて、スーッと客間に戻っちゃったんです。

え?なんて言った、あんたのこと? いやどう見たつて、お母さんのことじゃない、この状況をどう見たら私のことに見えるのって、すごくびっくりしたんです。そういうものの見方っていうものがあるのかと、初めて心の中に印象に残ったんです。

その後、二年八ヶ月、母はおいて頂き、五十八歳で身上をお返ししました。

母の遺品整理をしていましたら、母が千葉教務支庁で委員長講習会の時に話をした原稿が出てきたんです。その原稿には、お母さんの妹がお母さんの生年月日と名前を、

姓名学の鑑定の先生に出して鑑定してもらつたお話が書いてあり、鑑定士の先生は、この人は今生きてるんですか? ってこう言つたそうです。

妹さんは、はい、もう子宝にも恵まれて元気に幸せに暮らしていますと言いましたら、その先生がびっくりした顔をしてみ、不思議なこともあるもんです。この人はね、二十八歳でとくに命のない人ですよ。なにか信仰しているんですか? って聞かれたんです。

天理教ですと言つたらその先生が、よほど素晴らしい人生の師と巡り合えたんですね。と言つてもらつたそうです。

そういうことを、母は妹から聞いて、思わず自分が若い時に胸を病んで、大美國布教所時代の初代さんから助けて頂き、その時に初代さんから、あなたは道一条を通らないと、二十八で命がないよ。だからうちの嫁になつて、しっかり道一条で通れ。こんなふうと言われて中村の人になつたと書いてあつたんです。

へえー、二十八。私は二十八の時は何だつたかなって、なんとなくふと思つて、私は

ハツとしたんです。母のお葬式の時に私は二十八だったんです。偶然だろ。そういうこともあるって一生懸命思うんですが、おばあちゃんのことだよ、つちゃんあんたのことだよ、つていう言葉が、また頭に浮かんでくるんです。

いや偶然だ。いや偶然じゃないのかな。なんだろうなっていう気持ちになつてきて、この辺で何かが囁くんです。偶然にしているのかつて、それでもいいのかつて。

本当にお母さんの二年八ヶ月の闘病生活と、私の三年千日をびったりと重ね合わせて、今何かを教えて下さっているのかなと思ひました。

教祖が、何か囁いているんだなと思つたら、自分の中から声が聞こえてきたんです。本気になってお道を通らないと、お前に四十代も五十代も来ないよ。本当にそう言われているようでした。

私は中村の父から、母を送つたときにこんなことを言われたんです。中村の家は、もう代々女房の方が乳飲子を置いて先立っていくんだ。やつていかれなくなつた亭主

が後妻さんをもろう、もう俺の代で七代になる。それを繰り返してきて、お嫁に来た後妻さんにも子供ができれば、兄弟といったつて二腹になる、なかなか上手くいかない。

そんなことを七代も繰り返してきてるんだ。だけど、中村の家がお道になつてから、初代の時は三十二で逝つちゃつたけど、お母さんは五十八まで置いてもらつたじゃねえか。道一条でそれなりに通つたから二十年延ばしてもらつたんだよ。お前だつて、あと二十年しつかり通れよ、そして七十年代じゃないか。七十年代な人並みだろ。そう言われたんです。

一人ひとりが、持っている大きないんねんを、御用に交えて果たさせて頂く。この道は、生きながらにして生まれ変わる道なんだなあと思つたんです。毎日の暮らしの中でも、親神様が見せて下さっているんだなあと感じられたら、そこに思召が見えてくる。

それを、親心と受け取る心があれば、自然と人生の道標が見えてきて、力が湧いてくる。そして、この道の素晴らしさ、

しは、教祖がご存命でおられるということ。それからは子育てをしなから、たくさんの御用をさせて頂きました。

ですが人間って、毎年同じことを繰り返していると、行事だ例会だ総会だ、月次祭だひのきしんだ、明日は上級、明後日は大教会、そして、はい次は教区支部。それを繰り返していく中で、慣れてくる。慣れてくると、うまく何でもやつていけちゃう。

取り立て、明日の女になんは上手くやれますように、婦人会の先達講習会、たくさんの人に来て頂いて、何か一つでもお土産持つて帰ってもらえますように、神様によくお願いしてなんて、そんなことも、忘れちゃうんです。

そして、済めば、無事に済んでありがたかつたなつて、お礼もしたかしくないかというように、結局神様のことが抜けてしまう。忙しいから、一つ終われば次は何だっけ? そうなつてしまふんです。これで教祖に、本当に喜んで頂いているんだらうか。

時々チクチクそういうことを思いながらも、やっぱり目先のことに忙しくて、大事な心の成人は疎かになっていく。親々から、たくさんいろんな言葉を聞いても、そんな言葉もだんだん軽くなって、自分の中の重石にならない。そうやってくると、本当に大事なことを真剣に言ってくれる人も、怒ってくれる人もいなくなってくるんです。

つい人間思考で先案事をしつてしまい、心の中から何かが消えてしまうんです。私はこのままやっていて、子どもたちに信仰の喜びを伝えていかれるんだらうかとか。

体は忙しく働いている、でも、心の中はそれを少しも楽しんでいない。そんな感じでした。私は、何かを失っちゃったんでしょ。

◆会長の身上を通して◆

そんな時に、とんでもないことが起こったんです。今から十六年前、会長がトイレから出る時に、足を取られて思いつきり後ろにバタンと、ひっくり返っちゃったんです。そのまま全く動かなくなり、お医者さんからは頸椎損傷、

首から下は四肢麻痺で、このまま治療をしても、良くて車椅子、悪ければ一生寝たきりです。と言われたんです。すぐに上級の会長さんがおさづけに来てくれて、なんとなくこうホッとした気持ちになったのを覚えています。

翌日、朝づとめで拍子木の前に座って、頭を下げたときに、「ありがとうございまして」という言葉が出たんです。そんな自分に本当にさらけにびつくりして、拍子木を叩きました。本当に助けたい親心いっぱいで見せて頂いていることなんだと、おつとめを唱和しながら、その温かい親心を感じました。涙が止まりませんでした。

私は今まで、何十回何百回形ばつかりのおつとめをしてきたのかなって思いました。親神様のご守護がなければ、人間は指一本を動かすことはできないんです。水一滴喉を越さない。水を飲めば水の味がするって、すごいことなんです。そして、このおつとめとおさづけだけを頼りに、親々を通してくれたからこそ、苦勞を泣きの涙で通ることの

ない教会生活と巡り会えたんだと思えました。会長は、奇跡的にも、一週間目には尿管も外れ、その数日後には、首のコルセットだけ外さなければ、何をしてもいい、病院の中も歩行器も使わずに歩いていると言われ、までにご守護頂きました。

そして、四十三日間の入院生活でしたが、十月二十三日に退院し、秋の大祭に参拝させて頂けたんです。本当に改めて、人間は自由自在のお働きを頂いてこそ、本当に生かされているんだと思えました。そういう、本当に計り知れない親心いっぱい、人間はそこをご守護を頂いてなかつたら、指一本動かすことはできないと実感しました。

私は、心の中から失ったものを取り戻したような気がいたしました。おふでさきにどのよふな事でも神のする事や、これをやまいとさらになもうなとあります。(六一―22)

神のすることやと思えたら、不思議と不安が消えていくんです。私はその時から、片時

修養科を終えて



女満別分教会所属

姉崎明美・さとみ(3歳)・

福田綾子

○修養科志願の動機、また、修養科生活はどうでしたか？(姉崎) 様々な悩みや家庭内の問題から、嫁として、母親として、日々の生活に力が入らず、気がつけば身上を頂いてしまい、主人に修養科を勧めてもらいました。

今までの生活から一変して、とにかく「しんどいなあ」という日々でした。けれども、子供と触れ合う時間がとても嬉しく、少しずつ体調回復の御守護を頂きました。おつとめもおてふりも鳴物も知らない私でしたが、福田さんと涙

しながら練習した事が思い出の一つです。(福田)

身上と事情がいつべんに起こった事がきっかけで、修養科に志願しました。身上は、バセドウ病という病気です。事情は、家庭内コミュニケーションの困難や職場での人間関係など様々な事に悩んでいた時に、会長さんから姉崎さんを紹介され、初対面にも関わらず、自然と話が盛り上がり、その後も連絡を取り合いながら修養科に志願することを決めました。

修養科が始まってすぐに体調不良や持病の股関節痛に悩まされ、加えて慣れない生活で家に帰りたい！と何度も思いました。しかし、同期の姉崎さんや娘のさとみちゃんがいてくれたおかげで、折れかけた心を立てなおし、その後は少しずつ楽しい3人相部屋生活になりました。

○修養科を修了して(姉崎)

修養科を修了して1ヶ月が過ぎますが、今は子供と1日に何回か公園に行つて滑り台と一緒に滑れるようになった

こと、主人との会話が増えたこと、そして、日々家族でおつとめをしていること、何より生活のリズムが改善してきたことが幸せです。おかげさまで、毎日のごはんがとってもおいしいです！教祖の指導きで、先日、仕事も決まりました。少しずつではありますが、夢に向かって歩んでいます。この先も、色々な日があると思えます。けれども、決して後戻りはしないよう、しっかりと教祖にもたれて、何事も主人と相談しながらご恩返しを道を通りたいと思います。(福田)

日常の生活に戻りましたが、なぜか今までと違った感じ方や考え方をしている自分に気づき、周りの方々からも雰囲気が変わったね、と言って頂けたことが嬉しかったです。これからは、修養科で学んだ様々な事を自分の生活、人生に活かして、次のステップとお聞きした教人講習を受けようと思えます。その前に、教祖140年祭に向かって、より一層成人させて頂くために、今年10月の秋季大祭におちばがえりをしたい、と思つてお

ります。

修養科事後研修会 網走ひながたセミナースタート!

第1回修養科事後研修会(網走ひながたセミナー)が、5月18日から19日にかけて大教会で開催され、4名が受講した。

これは、修養科を修了された、教人資格講習会の受講を志す方や、教祖のひながたを勉強したい方を対象に、年2回(5月と11月)、1泊2日で開催される講習会で、プログラムは、編集された「教祖物語(漫画)」を映像で鑑賞したり、逸話篇の講義を聞いてのねりあい。よろづよ八首の意味合いについての講義。ようぼくの使命と題する講義を聞いたりして、普段、忘れていた教理を再確認する内容となっている。

また、参加者は夕食で、鍋物をつつきながら、講師陣と信仰談義に盛り上がった。

《受講者の感想》

女満別 福田 綾子 修養科を修了して、一カ月も経っていませんが、やはり、生活をする、ほこりを積み

も心の中から神様が離せなくなったんです。主人はその後、六十二歳で出直していききました。お道のお話を聞いてから息子で四代です。妻が初めて、主人を見送ることができたんです。

ひながたの道を素直に実行してみたら私たちには、確かに安心できる楽しみの道しか残されていない、私はそう思います。共々に年祭までのこの旬にしっかりと仕切つて、勇んで通らせて頂きたいと思えます。

立教187年 人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教人
60名	29名	18名	11名
成 果 (5月末現在)			
7名	5名	3名	0名

やすく、また前の自分に戻るのでは?と思つていたところに、事後研修会があると聞いたので参加させて頂きました。研修会では、講義の振り返りや自分の心のチェックなど、先生方のお話を聞いて、気付きや、学びも頂きました。また、明日からの活力だったり、自分のご褒美だったりと明るくなりました。

家庭や職場で、様々なことがありますが、親神様、教祖を感じて、これからの生活をより良く、人をたすけさせて頂いて、陽気ぐらしのお手伝いを頑張りたいと思います。

自分で分かっているつもりでいたものが、答えられなかつたり、聞いてから思い出したりしたことが多かったので、受講してよかったです。楽しく学び直すことができました。

私自身、伝える側として、少しでも成人できる場を頂き、



網新 新川千穂子

教人資格検定講習会を受講させて頂いたのが、七、八年前でしたので、初心に戻り、新たに気付かせて頂くことも多くありました。まだまだ勉強できることを再確認しましたので、教会に戻り、日々できることをさせて頂きたいと思えます。

こどもおぢばがえり
参加者募集!

今年もこどもおぢばがえりの季節がやってまいりました!

ぜひ一人でも多くの子どもたちをお誘いし、おぢばの楽しさを感じてもらいましょう!

【日程】

7月27日(土)〜7月2日(金)

《27日》

13時00分

網走大教会集合出発

23時30分

小樽港フェリー発

《28日》

24時30分 網走詰所着

《29・30日》おぢば行事

《31日》長島スパيرانド

19時00分

名古屋港フェリー発

《2日》

11時00分 苫小牧港着

16時00分 網走大教会着

【費用】

小学生 約4万円

中学生・大人 約5万円

※詳細は各教会へお問い合わせ下さい

動 静

納骨式

▼東藻琴分教会六代会長夫人・小針すみ子の霊様の納骨式が5月21日、斜里町オホーツク霊園にて瀬川定自・大教会役員祭主のもと執行された。

5月人のご守護

○初席者

オホーツク岩 田 ゆずか (1名)

○中席者

誠 網 齋 藤 亜 紀 (1名)

○修養科志願者

誠 網 田 中 雅 典 (1名)

○修養科修了者

東 網 石 山 康 子 (1名)

○教人資格講習会受講者 (1名)

網 新 椎 木 敦 子

育英会寄付者

新川正人様 (姉10年祭)

大教会5月の動き

1日 役員会会議

4日 お話し会。網走支部役員会会場

5日 縦の伝道日

9日 網走支部総会会場

10日 役員会会議

11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育

成部部会

12日 月次祭。役員会会議。連絡会。婦人会先達講習会

13日 教会長夫妻練り合い。修養科事前研修会網走よろこびセミナー (15日まで)

18日 修養科事後研修会網走ひながたセミナー (19日まで)

23日 縦の伝道日

24日 詰所23会

26日 会長、本部神殿奉仕つとめる

27日 本部月次祭遙拝。会長、教区主事会出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる。

29日 縦の伝道日

29日 会長、かなめ会出席。藤山重善役員、本部神殿奉仕つとめる。大教会一斉活動日



教祖140年祭

立教187(令和6)年人のご守護成果表 (5月末現在)

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者		教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者							
						当月	累計							当月	累計						
直轄		2				4	47	誠中央						1	20						
美幌							3	常道							1						
女満別			2	2		4	28	徳道		1				2	15						
斜里							0	満金							0						
釧厚							3	網安							1						
武士							2	オホーツク	2					19	50						
常呂		1				2	20	網徳			1			3	6						
旭網							5	栗沢							6						
御料						1	1	徳元	1	2					8						
東藻							1	網盛							2						
陽光						1	7	網新			1			1	5						
呼人						1	5	網葉							1						
誠陽		1				1	8	網陽							2						
網栄							2	誠網	3	5	1			7	56						
實東	1	1				1	25	網次						2	12						
東網				1			1	網昇						1	6						
宗稚						1	11	網走							6						
初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者	教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者	教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者		
当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果
1	7	1	13			5	1	3					53	375							

5月 月次祭 5/12(日)

〈参拝者数 約100人〉

神職講話	賛者	指図方	扨者	祭主	祭員
	遠藤三 藤田三 岩井原三 澤田浩 春広 繁雄 志繁	結城和広	斎藤芳徳	新川正人	祭員
胡三味琴弓線	小すちやんが 拍子鼓 ちやんぼん 鼓	地 方		てをどり	祭典
藤丸山崎の道子	藤大結山 山城松 重雅和善 篤篤善人	齋藤藤 芳徳	栗林正徳	栗林善信	座りづとめ
藤結山誠真理子	清吉桐水 善光喜	遠藤原 明眞	田小中 敏篤繁	大青澤山 聖泰裕	前半
瀬川壁祐香子	遠藤三 藤田三 岩井原三 澤田浩 春広 繁雄 志繁	清安新 水田川 知光正 幸広	新栗三 栗林善 信子	瀬川正 徳子	後半